

総会挨拶

正式にはこの後の議題を経てということになりますが、前期に引き続いて会長に就任予定の望月善次でございます。これまた、就任予定の池田功副会長、森義真事務局長でございます。共々、会員のみなさんと力を合わせて学会創設の意味を深めて参りたく存じます。

先ず、この旭川セミナーが、北畠立朴北海道支部長の御高配のもと、旭川の旭川啄木会を初めとする関係の皆様の大変な御支援・御協力により実現致しましたことを感謝申し上げます。

実行委員会にも相当します旭川啄木会の石山宗晏会長及び石川千賀男事務局長を御紹介致します。

このセミナーの実現のため、契機にもなってくださった近藤典彦元会長・名誉会員にも感謝を申し上げます。また、やや個人的なことも含めての感慨を付け加えますと、櫻井健治氏が復帰されたことも、旭川セミナーを記念すべきものとしていると思えます。

このセミナー実現のための旭川の関係の方々の協力は大変なものです。ここでは、その象徴的事例として、この後の開会行事の際には、西川将人旭川市長が出席してくださいますことを申し上げておきたいと思えます。

会員の皆さんと共に、本学会創設の意味を深めて行きたく存じます。

昨年台北大会の総会の際にも申し上げましたが、「啄木の意味、啄木を学ぶ意味、啄木を研究する意味」を吟味し、「国際」を念頭に置きながら、若い力を結集し、学会創設の意味を深めて参りたく存じます。

「国際」について言えば、我が国の啄木研究は、諸外国に負けないものになっているかを思うのであります。私のインドや中国の大学等での講義体験等の限られた範囲においても、かの国の方々、学生諸君等の食い入るような学ぶ意欲を思い、それに比べ、我が国における学ぶ意欲はどのようになっているかを思うのであります。

もう一度、皆様と共に歩んで行く決意を申し上げ御挨拶に致します。

皆様、ありがとうございます。